

債券・為替 ウィークリーレポート



カナダ



ブラジル



メキシコ



オーストラリア



ニュージーランド



ノルウェー



南アフリカ






インドネシア



インド

市場概要・見通し（カナダ、ブラジル、メキシコ）

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		9/27 （9/20との比較）	9/27 （9/20との比較）	前年比 （※3）	先週末		
		今後の見通し （※4）	今後の見通し （※5）	景気の方向性 （※6）	方向性 （※7）		
カナダ 	AAA	1.36% （▲0.03）	81.44円 （+0.40%）	+1.6% 2019年2Q	1.75%	発表された卸売売上高は市場予想を上回った他、景況感指数は前月を上回る内容。原油価格は下落したものの、財政刺激策への期待感もあり、カナダドルは対円で上昇。米国の国債利回りの動きにつれて、国債利回りは低下。	GDP（国内総生産）や製造業PMI（購買担当者景気指数）などが発表予定。短期的に金融政策関連のニュースフローが乏しくなり、米中の通商協議の先行きに注目が集まる中、債券・為替市場ともに一進一退の展開を予想。
	Aaa	→ 金利横ばい	→	→ 景気安定	→ 据え置き局面		
ブラジル 	BB-	5.99% （▲0.02）	25.96円 （+0.09%）	+1.0% 2019年2Q	5.50%	発表された経常収支が市場予想を下回ったものの、消費者信頼感が前月比で改善した他、登録雇用創出合計が市場予想を上回る内容。累積的な金融緩和の効果への期待感もあり、レアルは対円で上昇。国債利回りは小幅低下。	鉱工業生産や製造業PMI、貿易収支などが発表予定。引き続き、金融緩和の効果が実体経済の改善にプラスの作用を及ぼすとの期待感が高まる中、債券・為替市場ともに一進一退の展開を予想。
	Ba2	→ 金利横ばい	→	→ 景気安定	↓ 利下げ局面		
メキシコ 	A-	6.70% （▲0.06）	5.48円 （▲0.89%）	-0.8% 2019年2Q	7.75%	発表された小売売上高が市場予想を上回った他、失業率および貿易収支が市場予想に比べ良好な内容。中銀が市場予想通り0.25%の利下げを実施する中、国債利回りは低下。メキシコペソは対円で下落。	製造業PMIや消費者信頼感などが発表予定。自国及び米国の利下げというイベントを通過し、経済指標や米中の通商協議などに注目が移るものと想定される中、債券・為替市場は一進一退の展開を予想。
	A3	→ 金利横ばい	↗	→ 景気安定	→ 据え置き局面		

出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示。

※2 国債利回りを表示（カナダ：10年、ブラジル：4年、メキシコ：5年）。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。

※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
















※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。

※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。

※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。

※政策金利については、カナダ：翌日物貸出金利、ブラジル：Selicレート、メキシコ：翌日物金利を表示。

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		9/27 （9/20との比較）	9/27 （9/20との比較）	前年比 （※3）	先週末		
		今後の見通し （※4）	今後の見通し （※5）	景気の方向性 （※6）	方向性 （※7）		
オーストラリア 	AAA	0.95% （▲0.07）	73.01円 （+0.32%）	+1.4% 2018年4Q	1.00%	発表された製造業PMIは前月を下回り、景況感の判断基準となる50に届かない結果。トランプ大統領の弾効を巡り米国の政治情勢に対し警戒感が高まったことなどから、国債利回りは低下。豪ドルは対円で上昇。	住宅価格や貿易収支などが発表予定。また金融政策決定会合が予定されており、市場では0.25%の利下げが予想されている中、金利は緩やかに低下する展開を予想。為替市場については、一進一退の展開を予想。
	Aaa	 金利横ばい		 景気安定	 利下げ局面		
ニュージーランド 	AA+	1.10% （▲0.05）	67.95円 （+0.94%）	+2.1% 2018年4Q	1.00%	発表された貿易収支は市場予想を下回った他、消費者信頼感指数は前月比で悪化する内容。中銀が市場予想通り政策金利を据え置く中、ニュージーランドドルは対円で上昇。国債利回りは低下。	住宅価格や商品価格などが発表予定。必要に応じ金融緩和を実施するという中銀のハト派姿勢が続くと見られる中、金利水準は基調としては低下していく展開を予想。
	Aaa	 金利横ばい		 景気安定	 利下げ局面		
ノルウェー 	AAA	1.23% （▲0.04）	11.89円 （+0.16%）	-0.7% 2019年2Q	1.50%	発表された失業率は市場予想並みとなり市場への影響は限定的となる結果。トランプ大統領弾効への懸念等リスク回避的な動きを受け世界的に国債利回りが低下する中、国債利回りは低下。ノルウェークローネは対円で上昇。	小売売上高や製造業PMIなどが発表予定。米中貿易摩擦に対する思惑等の、政治的な要因に影響を受けやすい地合いであり、これらの材料を見ながら債券・為替市場はともに一進一退の展開を予想。
	Aaa	 金利横ばい		 景気拡大	 利上げ局面		

出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示。

※2 10年国債利回りを表示。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。

※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
















※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。

※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。

※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。

※政策金利については、オーストラリア：キャッシュレート、ニュージーランド：オフィシャル・キャッシュレート、ノルウェー：デポジットレートを表示。

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		9/27 （9/20との比較）	9/27 （9/20との比較）	前年比 （※3）	先週末		
		今後の見通し （※4）	今後の見通し （※5）	景気の方向性 （※6）	方向性 （※7）		
南アフリカ 	BB+	7.41% （+0.01）	7.13円 （▲0.97%）	+0.9% 2019年2Q	6.50%	発表されたPPI（生産者物価指数）は市場予想を下回った一方、雇用統計は前年比で増加基調を強める内容。国債利回りは小幅上昇。ランドは対円で下落。	財政収支や貿易収支、製造業PMIなどの発表を予定。これらの経済指標の内容及びラマポーザ大統領の政策運営に注目が集まる中、債券・為替市場は一進一退の展開を予想。
	Baa3	 金利横ばい		 景気停滞	 利下げ局面		
インドネシア 	BBB-	6.72% （+0.07）	0.76円 （▲0.29%）	+5.1% 2018年4Q	5.25%	特に注目すべき経済指標の発表はなし。国内主要都市で学生らによる法改正撤回を求めるデモが発生し、政治的混乱への懸念が高まる中、インドネシアルピアは対円で下落。国債利回りは上昇。	消費者信頼感指数や製造業PMI、CPI（消費者物価指数）などが発表予定。これらの経済指標に金融緩和の効果が表れるなどのポジティブな変化に期待もある中、債券・為替市場はともに一進一退の展開を予想。
	Baa2	 金利横ばい		 景気安定	 利下げ局面		
インド 	BBB-	6.42% （▲0.04）	1.53円 （+0.81%）	+5.0% 2019年2Q	5.40%	特に注目すべき経済指標の発表はなし。引き続き、前週に発表された法人税減税がもたらす経済効果への期待感が高まる中、インドルピーは対円で上昇。国債利回りは低下。	経常収支や製造業PMIが発表予定。また金融政策決定会合が予定されており、市場は利下げを予想。引き続き、法人税減税等のプラスの効果への期待感もあり、債券・為替市場は一進一退の展開を予想。
	Baa2	 金利横ばい		 景気回復	 据え置き局面		

出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる本国通貨建て長期債格付を表示。

※2 国債利回りを表示（南アフリカ：3年、インドネシア：5年、インド：5年）。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。

※3 経済成長率については、前年同期比を表示。

※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。

※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。

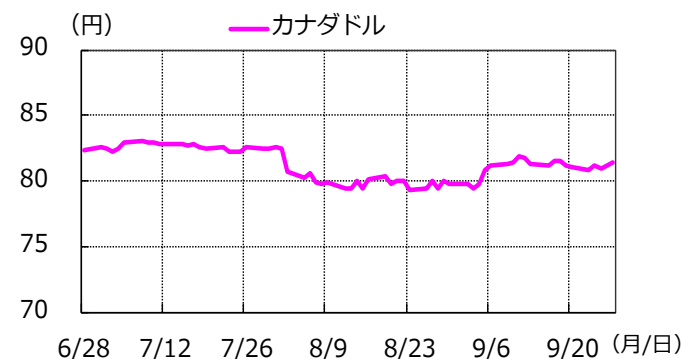
※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。インドネシアルピアは100通貨単位あたりの値。

※政策金利については、南アフリカ：レポレート、インドネシア：7日物リバースレポ金利、インド：レポレートを表示。

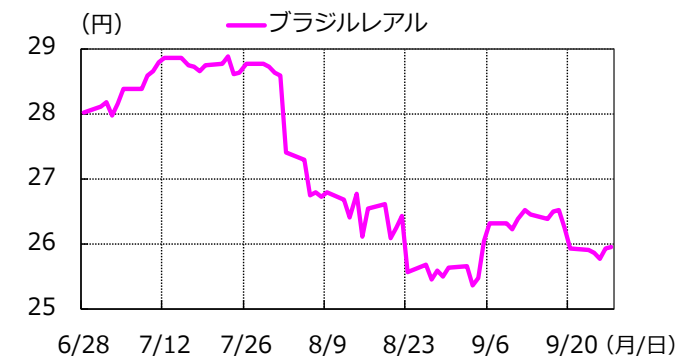
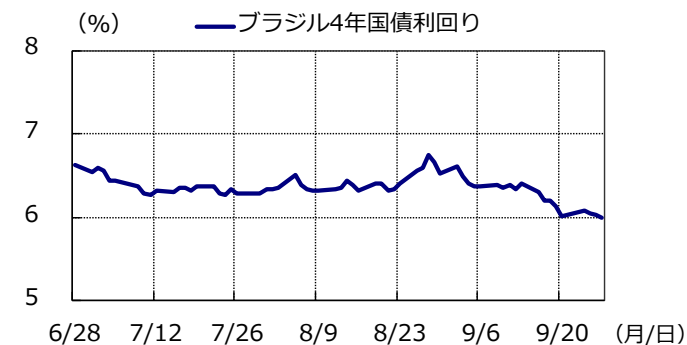
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

期間：2019/6/28～2019/9/27

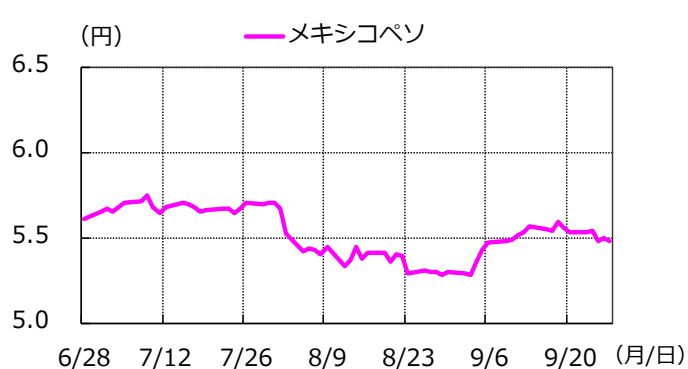
カナダ



ブラジル



メキシコ

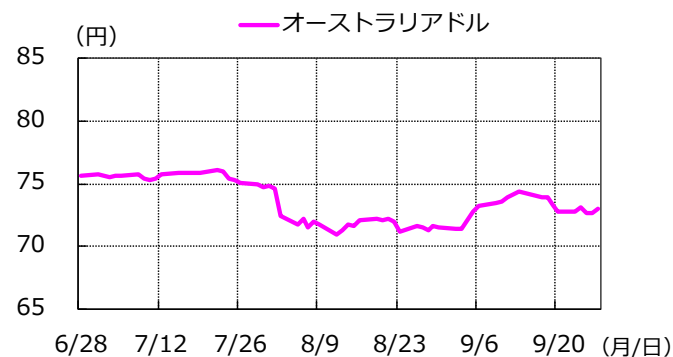
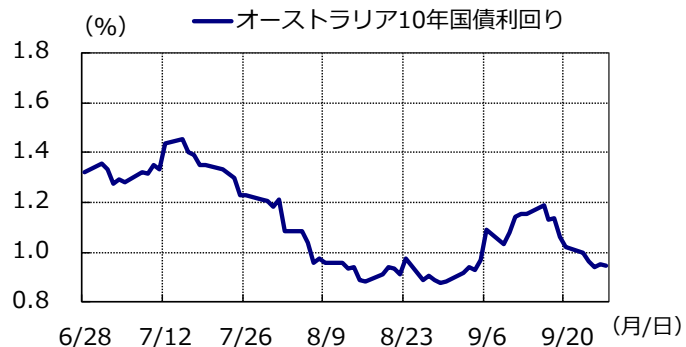


※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。出所：ブルームバークのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

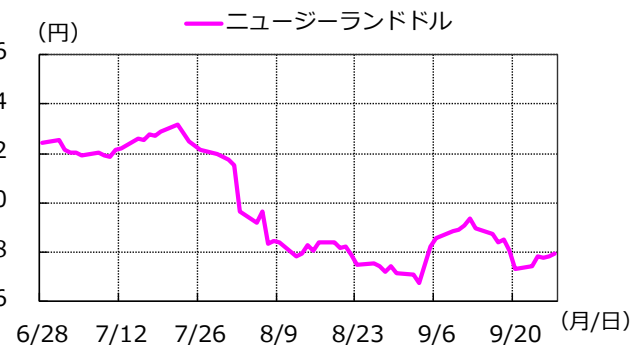
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

期間：2019/6/28～2019/9/27

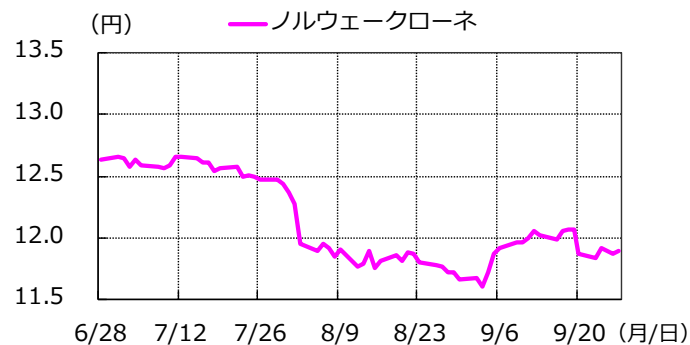
オーストラリア



ニュージーランド



ノルウェー

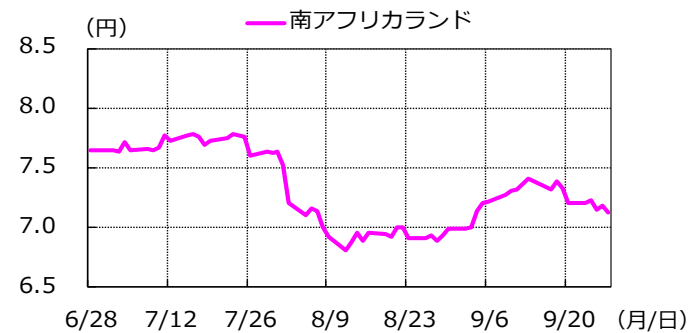


※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

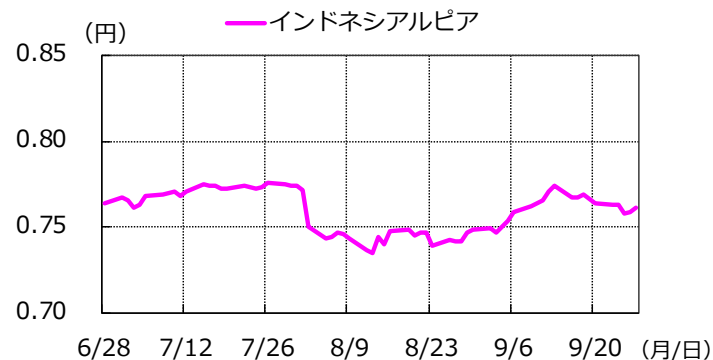
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

期間：2019/6/28～2019/9/27

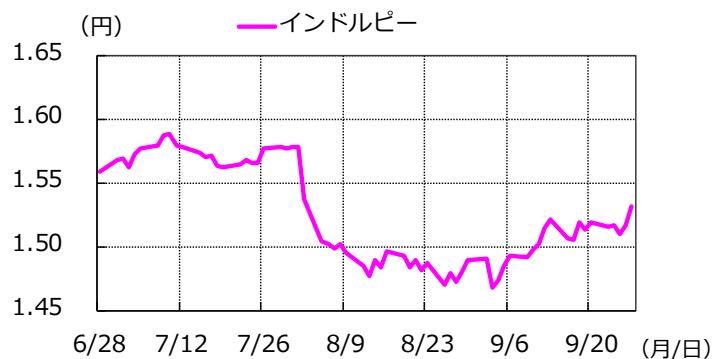
南アフリカ



インドネシア



インド



※インドネシアルピアは100通貨単位あたりの値。 ※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項

【投資信託に係るリスクと費用】

● 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式、債券および不動産投資信託証券（リート）などの値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替リスクもあります。）に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆さまに帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。

● 投資信託に係る費用について

[ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。]

■ お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料：上限3.85%（税込）

換金時手数料：換金の価額の水準等により変動する場合がありますため、あらかじめ上限の料率等を示すことができません。

信託財産留保額：上限0.5%

■ お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用（信託報酬）：上限 年率2.09%（税込）

※上記は基本的な料率の状況を示したものであり、成功報酬制を採用するファンドについては、成功報酬額の加算によってご負担いただく費用が上記の上限を超過する場合があります。成功報酬額は基準価額の水準等により変動するため、あらかじめ上限の額等を示すことができません。

その他費用・手数料：上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。投資信託説明書（交付目論見書）等でご確認ください。その他費用・手数料については定期的に見直されるものや売買条件等により異なるため、あらかじめ当該費用（上限額等を含む）を表示することはできません。

※手数料等の合計額については、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することはできません。

※上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、アセットマネジメントOne株式会社が運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。

※投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国が異なることから、リスクの内容や性質、費用が異なります。投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめ、または同時にお渡ししますので、必ずお受け取りになり、内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客さまご自身が投資に関してご判断ください。

※税法が改正された場合等には、税込手数料等が変更となることがあります。

【ご注意事項】

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成したものです。

● 当資料は、情報提供を目的とするものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。

● 当資料における内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。

● 投資信託は、

1. 預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象ではありません。

2. 購入金額について元本保証および利回り保証のいずれもありません。

3. 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。